



2023年4月30日

心に刻む信仰

香西 信



岡山聖書集会の参加者

(左から、小田博子、小田光彦、井口祥三郎、高橋浪路)

「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目になる」この言葉で有名なヴァイツゼッカー大統領のドイツ終戦40周年記念演説を最近読みました。この演説で大統領は、「思い出、想起」を意味する言葉(Erinnerung)を、あえて「ある出来事が自らの内面の一部となるよう、これを誠実かつ純粹に思い浮かべる」という意味で用いています。この言葉の持つ「内面化(内在化)する」「血肉化する(自分のものとする)」というニュアンスは演説の中で一貫して強調され重要な意味を担っており、この点を踏まえて翻訳では「心に刻む」と工夫された訳になっていました。ユダヤ民族はこの悲惨な出来事を今も将来も必ずや心に刻み続けるだろう。だからこそ彼ら(同胞)と心からの和解を果たすために、我々もまたこの出来事をいかに苦しくとも心に刻み続けなければならない。

「忘れることを欲するならば捕囚は長引く、救いの秘密は心に刻むことにこそ」大統領はユダヤ教のラビ、イスラエル・ベン・エリエゼルの言葉を紹介して、心に刻むことこそ信仰の本質であることを説きます。心に刻むとは歴史において働く神のみ業を経験し、これを

信じることであり、それは未来への希望を生み、救いの信仰の源泉になる。心からの和解は心に刻む信仰以外からは決して生まれないのです。

無教会的信仰は、聖書全体を機械的に神の言であると信ずるのではなく聖書を生ける神の言、すなわち生きて在したもう神の生命の自己表頭と信じ、聖書を研究することによって、この聖書に自己の本質と意思と行動とを表頭したもうた神御自身を見出し、これによって神の生命に接し、ついには罪の自己を十字架上のキリストに見出し、そのキリストの生命を自己の中に見出すに至るのである。すなわち無教会的信仰は、神の生命が自分の中に生きている信仰である。(黒崎幸吉著作集第四巻より)

黒崎先生は無教会主義の聖書集会の理念を上記のように語られています。この文章を読むと、心に刻む信仰とは無教会の理念にも重なるものであることがわかります。私たち無教会主義の聖書集会はいずれも教会に属することなく独自の集会を守り続けている非常に小さい信仰の群れです。にもかかわらず私たちの集会が存続しているのは、神によって重要な意義が与えられているからであり、それこそが聖書の言葉を心に刻み、聖書を生きる信仰ではないでしょうか。一人一人が理性と信仰を持って聖書を研究し、世にあって罪赦された罪人として聖書の言葉を誠実に生きること。このことを心に刻みつつ、御心ならば岡山の地で伝道を続けていきたいと願うものです。

(こうざい しん 岡山聖書集会)

目次

表紙・巻頭言	
目次・内村鑑三の言葉	
表紙について・発行趣旨……………2	
内村鑑三記念キリスト教講演会（東京）……………3	
内村鑑三記念キリスト教講演会（名古屋）……………5	
内村鑑三記念キリスト教講演会（大阪）……………7	
『内村鑑三と今井館 ― 本駒込の地で 想いをつなぐ』移転開館記念誌に寄せて……………9	
	追悼： 関口安義先生追悼 故武藤富子さんへの感謝……………11
	学校・学寮だより……………12
	各地からの報告……………15
	定期集会・特別集会のお知らせ……………16
	事務局便り……………19
	維持会員募集のお知らせ・編集後記……………20

内村鑑三の言葉

戦闘の止む時

勝つこと^{かならず}必しも勝つに^{あら}非ず、負けること必しも負けるにあらず、愛することは是れ勝つことなり、憎むこと、是れ負けることなり、愛を以て勝つことのみ是れ永久の勝利なり、愛は嫉^{ねた}まず、誇^{たかぶ}らず、驕^{たかぶ}傲^{たかぶ}らず、永久に忍ぶなり、而して永久に勝つて永久の平和を来たす、世に戦闘の止む時は愛が勝利を占めし時のみ。

（選者注：日露戦争は1904年2月8日、日本軍の仁川港・旅順港への奇襲攻撃によって始まった。正式の宣戦布告は2月10日。上記は、同年5月19日刊の『聖書之研究』52号に掲載された。ルビは一部のみ残した。『内村鑑三全集』12巻、岩波書店、1981年、164頁）。

（選:NPO法人今井館教友会相談役 大山綱夫）

○表紙について

『今井館ニュース』第55号巻頭言は、香西信さんが、主によって集められた、小さくとも堅固な信仰に生きる岡山集会のことをお書きくださった。無教會的信仰は神の言葉を心に刻んで生きること。そして、それは、国境を超え、時を超えて、先人の信仰に繋がり得る、強い力となるものなのでしょう。全国に散らばる多くの小さな群れは、こうして神のネットワークの中にあります。
(C.Y.)



『今井館ニュース』発行趣旨

NPO 法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三（無教會の提唱者）及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする（定款第3条）。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として今井館ニュース発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする（定款第5条3項）。